

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	体験教育旅行を含む体験型観光推進事業	会計	一般会計	事業No.	485	施策順No.	13-015
		事業種別	政策・その他	予算科目	7-1-4-13-13		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり	課等名		観光課			
施策	13 地域内産業の多様な連携	事業期間	開始	16	終了	27	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	体験教育旅行を受け入れる農家や団体・個人 都市圏を中心とした一般社会人(団体・個人)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		体験教育旅行の受入れ農家数		430	440	450	450	
		社会人団体(中京圏ほか)		100	100	100	100	
意図	体験教育旅行に継続して参加してもらうために、受入れ側の質の向上を図る 講習会や反省会などの開催を通じて、個々の農家の悩みや課題を解決し、安定的に受入れが行われるようにする							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	説明会や反省会への参加者数	173	150	190	170	203	180	A
	体験プログラムを実施他一般社会人団体数		3	4	5	7	7	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価あり】	目標は達成できたが、体験プログラムを利用する一般社会人団体を増やす方策を検討する必要あり。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験教育旅行の受入れ農家に対する説明会や反省会の開催を通じて、受入れ側の質の向上を図る。</li> <li>受入れの関係団体や個人の学習会の場を設け、インストラクターの質の向上を図る。</li> <li>都市と農山村の共生・対流の推進。学生を対象とした体験プログラムを社会人に対しても提案していく。(都市農村共生対流推進事業からの移管)</li> </ul>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 体験教育旅行の受入れ農家を対象とした研修会 2 インタープリター養成講座 (1) 桜守ガイド (2) 自然歴史環境 3 体験型観光資源再創出事業	1 開催数 2 養成講座数 (1) 開催数 (2) 開催数 3 事業数	1 17回 2 2種 (1) 3回 (2) 6回 3 7事業
23年度実施計画	1 体験教育旅行の受入れ農家を対象とした研修会 2 インタープリター養成講座 (1) 桜守ガイド (2) 自然歴史環境 3 簡易宿所資格取得促進業務 4 企業研修用の体験プログラム企画、宣伝	1 開催数 2 講座の種類 (1) 開催数 (2) 開催数 3 資格取得件数 4 営業先	1 16回 2 2種 (1) 3回 (2) 6回 3 10件 4 5箇所

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		県支出金				
		起債				
		その他				
		一般財源	1,440	1,091	1,083	
		計(A)	1,440	1,091	1,083	
		正規職員所要時間				
		臨時職員等所要時間				
		人件費計(B)		0		
		トータルコスト A+B		1,091		

4 事業に対する市民や議会の意見

体験教育旅行については、全国的に評価が高い。また、事業は数多くの受入れ農家の協力により成り立っている。さらに拡大を求める意見が多い。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	地域内産業が、多様な連携により新たな経済活動を創出する。	施策の成果指標又はムトス指標	観光消費額(億円)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	体験教育旅行受け入れの推移は堅調であり、観光消費額や経済波及効果には十分貢献している。		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>民泊受け入れ農家数の維持、1日当りの民泊校数の拡大と品質保持。</li> <li>企業研修の確実な商品化。</li> </ul>		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>南信濃地区での受け入れ農家の新規開拓。</li> <li>企業研修に着手。</li> </ul>		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>上村地区、既存地区における受け入れ農家の新規開拓。</li> <li>受け入れ体制をはじめとする品質保持。</li> </ul>		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>最低限の経費で実施してきた。</li> </ul>		
	後期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	体験教育旅行は(株)南信州観光公社の主力商品であり、市は体験教育旅行の質的支援や後方支援をし公社の財政的独立を促してきた。		
	後期に向けた課題	(株)南信州観光公社が人的にも拡大を図る時期にあるため、さらなる質的支援や後方支援が必要。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>①(株)南信州観光公社が旅行会社と受け入れ先のコーディネートを行う。</li> <li>②市は体験教育旅行をはじめとする体験型観光の質的及び後方支援を行う。</li> </ul>		
	後期に向けた課題	企業研修の商品化と実績作り。		
全体を通じて	4年間の振り返り	他地域が同様の事業を拡大していく中で、堅調に推移してきたのはトップランナーとしての実績と品質のよさがあったといえる。		
	後期に向けた課題	体験教育旅行のノウハウを活かした企業研修の受け入れの成功が課題。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--